
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成21年9月21日～12月20日)

株式会社パイオニア 李 宗 鎮
サカエブロス 堀内 隆

イタリアミラノでの3ヶ月間（平成21年9月～12月）、ARS国際靴学校での研修を終えて、靴に対する深みのある技術、知識、インスピレーションを得ただけでなく、海外で生活をし、世界各国の人々と一緒に授業を受け、さまざまな国の文化に触れられ、とても大きな感動と新しさを与えていただきました。

【研修内容】

ARS国際靴学校には、靴のコースと鞣のコースがあり、私たちは3ヶ月間の靴の型紙のコースでした。

型紙を中心に、デザイン画やアップー製作、皮革の種類やなめし方、靴の製法やインターナショナルサイズの換算法まで、3ヶ月間という短期間ではありましたが、さまざまな靴に関する知識と技術を幅広く学び、習得することができました。

外羽根、内羽根、パンプス、サボ、スニーカー、各種ブーツなどの基本的なデザインの型紙及び応用まで、1日2～3型ぐらいのデザインで、型紙と紙アップーを作成していきます。

ルナティシステムと呼ばれるスプリングを作り、木型にフィットさせる型紙の作成方法を学びました。ルナティシステムとは、まず始めに木型の原型を取り、平面上の原型にデザイン別に決まった数値や公式などを使い導きだしたスプリングと呼ばれる切

り込みをいれるというシステムです。



写真① 授業風景

このスプリングは、デザインによってさまざまな公式があり、紳士、婦人、子供靴によってもそれぞれの決まった数値や公式があります。この数値や公式を覚えて、応用することによって、経験の浅い人でも基本的な型紙を、比較的スムーズに木型にフィットさせるよう作成することができるようになります。



写真② クラスメートたちと

また、デザイン画に関してもルナティシステムがあり、絵の苦手な人でもそれなりにデザイン画をスムーズに描くことが可能になりました。

何事にも言えることですが、ルナティシステム使用で、型紙もデザイン画もスムーズに作成することができるようになりましたが、やはり経験がとても必要なシステムであり、今後とも経験を重ね、応用幅を拡充していくことが重要だと実感しました。



写真③ LINEAPELLE 会場

課外授業で行った見本市(リニアペッレ)ですが、ボローニャで毎年2回開催され、出展業者が1,000以上と言う大規模な見本市です。その約半数がタンナーで、出展業者も来場者も世界各国さまざまな場所から来ており、各業者各ブースもそれぞれ個性がありました。

また皮革ですが、皮の質、色や素材の豊富さや、プリント加工の技術など、靴や革に関しても先進国だけあって、とても興味深く、1日では全く足りないと感じるくらいの規模と、クオリティーの高い見本市でした。

シャネル工場見学で私が感じたことは有名ブランドがなぜ高いのかということです。工場内は非常に清潔で、製品一つ一つは損傷を受けないようにラッピングされて

いて、靴片方片方に注意を傾けて作って、チェックして、すべての工程を慎重にする姿に感動を受けたし、有名ブランドが高い、考えられなかった理由を知ることができました。



写真④ シャネル工場見学

革工場見学でもまた、清潔さを感じたし、仕事をする人々から言葉で表現できない自負心というものも感じられました。

靴に関するだけでなく、ウィンドウショッピングでの市場視察、展示会場や町行く人々のファッションやスタイルを通して、今年の流行の傾向やデザインのインスピレーションがわいたり、日本ではなかなか出来ない貴重な経験をたくさんすることができました。

研修末にはオリジナル企画に突入します。

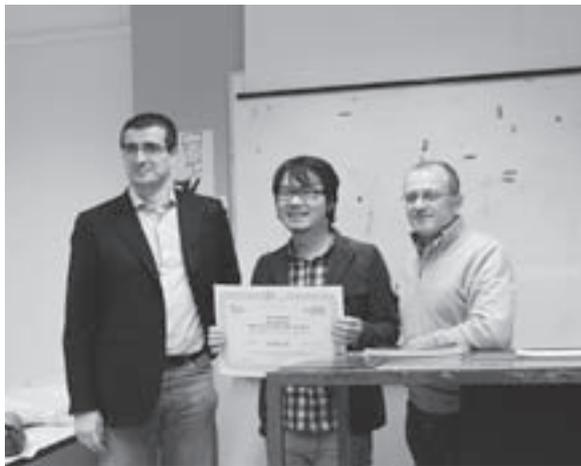
先生とデザインに対して相談をし、パターンを作成して、それとともに自分の誤った点を把握し修正を受けて、裁断をします。そして、審査の結果、李研修生のデザインしたブーツが3位に選ばれ、優秀な成績を修めました。先生も李研修生がしたデザインは、経験がなく、お互いに苦労しましたが、良い経験になったと思います。いくら難しいことでも考えて、また考えて、また考えればいつかは解決方案が出てくるということを改めて感じました。

最後の一週に入るところに、卒業試験が始まりました。実際に英語で答えなければな

らないということが心配になりましたが、幸いにも答えることができないところは、一緒に試験を受けた日本の女性が通訳をしてくれて返事をする事ができて安心しました。

課題を提出するのも大変でしたが、復習になって本当に良かったと思いますし、また英語をより一層勉強して、自分のデザインに対する感じを伝えることができる程度の実力を積みたいと感じました。

クラスメートは皆、英語をある程度は話していたので、今後も良い関係を維持することができると思うし、より多くの情報交換が可能だと思いました。



写真⑤ 李研修生と先生

【ミラノでの生活】

ミラノでの生活ですが、3ヶ月の生活ベースは、ARS国際靴学校と同じ建物内にあるレジデンスの一部屋でした。

部屋は想像していた以上に綺麗で広かったです。2人部屋にはキッチン、バス、トイレ、TV、電話、ベッドが2つ、食事用の大きなテーブルとイス以外に、ソファと小さなデスクも付いていました。収納スペースもたくさんあり、キッチンには食器や調理器具なども揃っていて自炊することもできました。スーパーマーケットは、歩いて行ける場所にあったので食料品や飲料

水を買に行くこともでき、レストランも数軒あり、3ヶ月の生活をしていくうえで、不自由することも特になく、大変快適な生活を送ることができました。

また週に2回のタオル交換と、週1回の掃除、ベッドメイキングのおかげで、掃除の心配もなく、集中して勉強ができました。

レジデンスから歩いて5分ほどの場所に、トラムと呼ばれる路面電車の駅があります。ここから乗れるトラムは、ドゥオモと言う街の中心地にあり、ミラノを代表する大きな教会がある広場まで行く電車や、カドルナ駅という大きな駅を通過する電車など、2~3本ほどの路線を走る電車が乗り入れます。初めはチケットの買い方や乗り継ぎの仕方が分からず、徒歩や、乗り継ぎが簡単な地下鉄で行動することが多かったのですが、慣れるにしたがって便利になっていきました。

ミラノの街には何世紀も前の建物や歴史的建造物が、今もそのまま残っています。街を歩けば本や雑誌でしか観たことがなかったヨーロッパ独特のゴシック建築や、バロック様式の建物を簡単に目にすることができて、モダン建築とともにミラノの街に馴染み溶け込んでいます。

やはりファッションの最先端に行くイタリア、ミラノだけあり、老若男女それぞれ個性を活かしたオシャレを楽しんでいるように見受けられました。それは年代や性別、スタイルやプロポーションなど関係なく、個々のオシャレを個々のスタイルで楽しんでいると感じました。街を歩きながらのウィンドウショッピングや人間観察も、立派な勉強になると感じました。

これらの歴史的建造物の見学、ウィンドウショッピングでの市場視察、展示会場や街行く人々のファッションやスタイルを通して、今年、流行するデザイン傾向のイン

スピレーションがわいたり、日本ではなかなかできない貴重な体験を、たくさんすることができました。

【研修を終えて】

この3ヶ月間、靴の本場であるイタリアで生活し、集中して勉強できたこと、また、他の国々の靴関係者と知り合い、情報交換ができたことは、これからの私たちの人生において、とても有意義で貴重かつ重要な経験となりました。さらに勉強を重ね、会社だけでなく日本の靴産業への貢献に必ずつなげていかなければならないと思っています。

この研修で、私たちの力になって下さった関係者の皆様、また業界関係者の方々のご期待にお応えできるよう、これからも日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただき、大変ありがとうございました。この場をお借りして、関係者の皆様には厚く御礼を申し上げます。



写真⑥ 堀内研修生修了証書を受領

